

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

(5月30日 定例総会)

挨拶

挨拶

会長
野間口 有



本年は、1938年9月9日に日本知的財産協会が設立されてから70年目を迎える記念すべき年です。

電気会社10社の特許関係者16名が集まって特許管理のあり方等についてディスカッション、研究を行ったのが当協会（当時は「重陽会」）創立の契機であったようであります。今日では、日本企業からなる正会員約910社、特許事務所、知的財産関連団体等からなる賛助会員約270の会員を擁する、世界の中でも最大の知的財産出願人・権利者団体として自他共に認める責任ある団体となりました。

総会開催時に「JIPA70年の歩み」に関するパネル展示がありました。年々会員数が増加するに従い、会員企業の経営に資するという大命題の下で、この70年の間に当協会は実に様々な活動を行って来たことが判ります。特に、会員企業の所属員に対する知的財産教育の他、日本はもとより世界の知的財産制度およびその運用の改善という面で、多大なる貢献をして来ました。この間、順風満帆の時期ばかりではなかったと思いますが、ここに創立70周年を迎えることができたのも、ひとえに、諸先輩方の献身的且つ先見性をもった諸活動、ならびに特許庁を始めとする関係行政機関、団体の暖かいご支援、ご鞭撻があったからであると、深く感謝し、併せて敬意を表します。

さて、昨今の会員企業のグローバル事業展開に伴い、当協会も国内のみならず海外にも大きな関心を持って活動を推進しております。特に、隣国の中国については、両国の企業がお互いを理解し合っ て健全且つフェアな競争を行うことができることを狙って、ここ数年間、企業連携会議を実施しておりますことはご承知のとおりです。この5月に中国の胡錦濤国家主席が来日され、日中首脳会談が開催されたことは記憶に新しいところですが、実はこの会談の中で知的財産権保護について戦略的互惠協力をを行うことについての確認もなされました。特に共同プレス発表には「(日中)双方の企業間で知的財産権の保護及び利用の経験交流を強化する」との一文があり、当協会が実施している日中企業連携会議等をサポートすると共に、更に強化すべしとのメッセージが発せられたことは、当協会の活動をより積極的に推進するに当たって心強い限りです。ご承知のとおり、当協会は、中国以外のアジア諸国・地域の関係行政機関に対しても、知的財産制度およびその運用の改善に関する種々の提言を行うと共に、これらの行政機関、民間団体とも積極的な交流を図っております。また、欧米の知的財産関連団体とも、ここ数年間に亘り知的財産制度のハーモナイゼーション実現のための会合を重ねており、特許出願書類の様式統一等の成果が着実に出てきております。本年度の当協会運営方針の一つにもあるように、当協会がユーザーフレンドリーな知的財産制度の実現の先導役となることを期待す

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ると共に、会長としても出来る限りの支援をしていきたいと考えております。

YKKの佐藤常務におかれましては、この2年間、当協会副会長としての職責を全ういただき、本当にありがとうございました。昨年11月に貴社の黒部事業所で開催させていただきました「異業種経営者を囲む座談会」には貴社の田家副会長にもご参加いただき、特に印象に残っております。今後とも、当協会活動に対しまして、忌憚のないご助言、ご鞭撻をいただくようお願いいたします。

本年度は新たに、ニコンの富野取締役常務執行役員および川崎重工業の松崎代表取締役副社長を副会長としてお迎えし、重任の味の素の江藤顧問およびブラザー工業の大門参与と共に、副会長4人体制で運営することとなりました。新任の副会長におかれましては、是非とも新鮮な息吹を当協会に与えていただくようお願いいたします。

最後になりますが、ご承知のとおり、当協会は基本的には会員のボランティア参加によって支えられております。今後とも、会員の皆さん方の当協会活動に対する積極的なご参加と共に、益々のご協力、ご支援をお願いし、挨拶とさせていただきます。

